

●シリーズ●わがまちの文化財へ43

町指定重要文化財 子持勾玉

昭和55年6月16日指定

この勾玉は昭和22（一九四七）年、東神崎の開墾地で発見され、付近に古墳時代の祭祀遺跡があったことが推定されています。

全長9.8 cm、胴部中央部幅4.7 cm、胴部厚2.4 cm、重さ94 g。石質は灰白色の滑石（軟質の火山岩）。形は比較的偏平で、腹、背、胴部両面にはそれぞれ2個の突起があり、腹部の突起は他の面の突起に比べると大きく突出しています。腹部、背部、胴部片面の突起は総体的によく調整されていますが、もう片面は未調整です。また、突起の弧線は非常に緩やかで、母体の弧線とほぼ同様で、頭端から2.3 cmのところには、一方から

あけられた直径0.3 cmの孔あながあります。

なお、同じ時代の子持勾玉（全長12.3 cm、重さ189 g）が、西隣の小世良の大谷遺跡から平成7（一九九五）年に出土しています。

世羅町大田庄歴史館に展示



●シリーズ●わがまちの文化財へ44

世羅町指定重要文化財 梵鐘ほんしやう

昭和59年5月15日指定

梵鐘とは、一般的には鐘・釣鐘と呼ばれているもので、仏教法具として仏教とともに大陸から伝来しました。時を知らせたり儀式の時などに鐘楼に吊って撞木しゆもくで撞き鳴らして使用します。重く余韻のある響きが特徴で一般には大晦日おおみそかに撞く「除夜の鐘」で知られています。

この梵鐘は、備後国の鑄物師総大工職として代々勢力をふるって来た宇津戸の丹下氏の鑄造したもので、県内に現存する在銘の丹下氏の銅鐘の中では最古の作です。和鐘形式で、高さ1.3メートル、口径76センチメートル。鐘には檀主として、町年寄であった渋谷・広瀬・小川氏や、製作者の名前と製作年も陰刻されています。

銘文の一部：「大工橘朝臣丹下甚右衛門家次 干時寛文七年とぎに（一六六七）八月吉祥日」※大田庄歴史館に原寸大レプリカを展示



太平洋戦争中、金属不足から供出にあいかけたが、請願して遺された丹下氏作の貴重な梵鐘。